

# 学生対応力の強化 ～学生の自己実現のために～

グループ名： 社会の歯車  
(C-3)

大学全体の学生対応力が低いと



学生の自己実現ができない。

職員が教員との連携を図るためには、職員全体での意識を統一することが必要！



まずは、職員から行動する。

## 1. 組織構成員の改革

部署間でたらいまわしにあった。  
問い合わせに素早く答えられない  
授業に対して不満がある  
職員の対応に不満がある学生  
新しい発想がでてこない。  
ザ・現状維持信仰者がいる

## 1-1 職員の意識を高める

(例)

- 大学の理念や建学の精神の再確認
- 関連法規等の勉強会
- 研修会への参加
- 笑顔や挨拶の徹底



**大学職員としての意識統一**

## 2. サービス向上

学生の満足度が下がる  
大学に対して信頼感を損なう  
相談をどこにしているの・・・  
学生が有益な情報を知らない  
情報が多すぎる  
自分に必要な情報がわからない

## 2-1 情報を発信する

(例)

- ホームページの充実
- 各種施設の案内

**利用促進を図る**

## 2-2 相談をしやすい環境の整備

(例)

- 総合相談窓口の設置
- メール相談
- 学生便覧のWEB公開

**学生の利便性を向上させる**

## 3. 教職協働にむけて

教員と職員の意見が違う  
個々の取組だけでは小さい効果  
教育パフォーマンスの低下  
双方に不満をもつ  
大学全体の一体感がでない。

### 3-1 教員の意識を高める

(例)

- 意識の高い教員による研修会の実施
- 職員がデータを集積し教員に提供

### 3-2 教員との連携

(例)

- 教職員全体による研修会の実施
- 教員とのグループウェアを導入

**大学全体の意識統一**

## 4. 教職協働によるステークホルダーの満足度向上

学生の意欲が低下する  
イメージと現実のギャップ  
空登録の増加  
教員と職員の対応が違う  
社会的な信用性が足りない



## 4-1 学生のニーズを汲み取る

(例) **現状では足りない!**

- ・ 各種アンケートを徹底的に充実させ、
- ・ 結果を教員にフィードバックを強化する。

**学生の満足度が向上する**

## 4-2 教職協働

(例) **教員の求める目標を職員が理解することが前提で**

- ・ 学生にわかりやすいシラバスの整理

**授業のミスマッチ防止**

## 4-3 学生の修学状況の把握

(例)

- ・ 教職員間で個々のデータを共有し、
- ・ それを各部門毎に有効に活用する。
- ・ 的確なアドバイスなどに繋げる。

**問題のある学生の早期対応  
退学者の減少  
未内定者へ適切な対応**

教職協働が実現することで  
対応力が上がり理想の姿になる



全ては学生の自己実現のために！

ご清聴ありがとうございました。